

＜ もくじ ＞	
1. 2020年度連続講座 第1回開催の報告	1
2. コロナ禍について想うこと、言いたいこと	2
3. 研究会からのお知らせ	3
4. 研究会からの概要報告	4
5. 事務局からのお願い	5

## 1. 2020年度連続講座第1回「コロナと共生する社会～ICTと歩むこれからのニューノーマルライフ～」の報告

シニア社会学会の連続講座は、例年、外部会場での集合形式で実施していますが、今年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、Web会議ツール「Zoom」を利用したオンライン会議方式で開催し、第1回はおかげさまで盛況のうちに終了いたしました。



### ＜第1回連続講座の報告＞

(1) 日 時：11月28(土) 14:00～15:20

(2) 方 法：ZoomによるWeb会議方式で開催  
講師3名によるリレー方式

(3) 講 師：第1部「ICTとともに変化するワークスタイル」  
八巻睦子（会員、ユニアデックス株式会社未来サービス研究所）  
第2部「ICTとどう歩むこれからの大学」  
森嶋由紀子（会員、駒沢女子大学非常勤講師）  
第3部「ICTと歩むシニア」  
富田光則（会員、株式会社電通マクロミルインサイト）

(4) 概 要：

#### ●第1部「ICTとともに変化するワークスタイル」

職場でのニューノーマルライフへのヒントとして、環境マネジメント・対人マネジメント・ヘルスマネジメントの3つのマネジメントの側面がある。また、物理的距離をICTで縮める第一ステージから、感情の距離を縮める第二ステージへのニーズが高まっている、とお話しされました。

#### ●第2部「ICTとどう歩むこれからの大学」

受講学生に対して実施したオンライン授業に関する調査結果を中心に話されました。大学側のICT活用による授業内外の「環境マネジメント」により、学生・教職員は「対人マネジメント」や「ヘルスマネジメント」が可能になり、授業や大学生活が快適になると考えられる。そして、このようなマネジメントが今後求められるのではないかとのことでした。

#### ●第3部「ICTと歩むシニア」

統計資料を見ると2019年にインターネット使用経験率が急上昇しており、その要因としては使用促進インフラの整備・デバイス需要拡大・新サービスの台頭があるのではないかと話されました。また、コロナ期のシニアのICT利用の事例を示され「使う・体験する、楽しむ、自分ごとにする」という3つの点が見られたこと、そしてアフターコロナ期のニューノーマルではシニア自身によるパーソナルな拡がりを目指されることが期待される、とのことでした。

## ●「まとめ」

アフターコロナ期のニューノーマルライフを過ごすために「ICT利活用における3助（自助、コミュ助、公助）」を示されました。「自助」は、自分ごとにする、創意工夫・発信してみる、チャレンジ精神の発揮。「コミュ助」は、他者からのサポート、相手からの気づき・啓発、使用機会の創出・提供。「公助」は、法制・インフラ整備、各種手続・しくみのICT化、デバイス改良です。アフターコロナ期の課題解決のための論点提示としての「まとめ」であり、詳細な検討は今後ということです。

**連続講座当日のアンケート結果から、いくつかのご意見を紹介します。**

\* 複数の講師の利点があった。

\* ICT導入を、年齢別、企業、大学、シニアなど複数の視角から俯瞰的にとらえており、しかも、3名の方々の報告も自分の割り振られた枠の中でやはり多角的な視点から考察しておられて、大変参考になりました。

\* 3名のパネリストがそれぞれの内容を十分に共有し連携しておられるのが伝わる講座だったと思います。

\* 置かれている現状を確認できました。確かに肩や首が痛く環境を整えています。大学でもICT活用は益々進む事を確認しました。

\* 「コミュ助」というのは言葉の響きはあまりよくないかもしれませんが、多彩な意味を込めた表現として理解できます。ただし、やはりこれらの機器にはどうしてもなじめない人が出てくることに對しても、何らかのコメントがあればよいと思いました。

**現在シニア社会学会HPで当日の動画を公開中です。是非ご覧ください。**

## 2. コロナ禍について想うこと、言いたいこと

### (1) 「つながる」ことへの工夫 藤崎 宏子（大学非常勤講師、会員）

コロナに明け、コロナに暮れようとしている2020年。すでに一線から退いているとはいえ、とくに4月以降、最も多くの時間を費やしたのは「教育」でした。

いずれの非常勤先からも「授業はオンラインをお願いします」といわれ、当初は茫然！なにせ、印刷資料の配布、板書、そして講義という昔ながらのスタイルで40年近くやってきたのですから、「新しい授業様式」には戸惑うばかりでした。まずは「オンライン授業のてびき」の類を熟読。もう一方で、あまり得意ではないパワーポイントによる講義資料の作成。この作業には膨大な時間を要し、ため息しきりでした。

また、本番の授業運営については、Zoomに入って以降の操作は同じでも、大学ごとに異なる授業の開始手順や講義資料の配布方法など、オンライン授業のサポートシステムの操作に混乱することもありました。前日に送付した講義資料取得のためのURLが他大学のものにすり替わっていて、受講生の「アクセス権要求」のメールでトレイに溢れかえっているのを目にしたときは、ゾッとしたものです。

ただ、オンライン授業も悪いことばかりではありませんでした。その一つは、リアクションペーパーの有用性の再認識です。リアクションペーパーはこれまでも活用してきたものの、授業の流れ次第で毎回はできず、できたとしても最後の5分など限られた時間のなかで書いてもらっていました。それが、授業後数日中に提出すればよいとすることで、受講生の多くは相当量の感想や意見、質問を寄せてくれます。学生一人ひとりの感じ方や理解度、疑問点などを、とても詳しく知ることができました。

オンライン授業という新たなつながりの可能性を知ったことで、元院生たちと不定期ですがZoomゼミを始めました。遠隔地に暮らす人やお子さんが小さい人たちとも無理なくつながることができ、コロナ後も続けていきたいものだと思っています。

### (2) 90歳のLINE利用を支える助っ人たち 佐藤 宏子（和洋女子大学、会員）

袖井会長が9月19日の会長ブログ「高齢女性のICT利用」のなかで、高齢者のICT利用には助

けてくれる人の存在が大変に重要だと書かれています。ひとつの事例をご紹介しますと思います。

母は90歳、静岡の駿府城跡近くで一人暮らしをしています。孫たちは母を「バッコ」と呼びます。バッコはガラケーの愛用者でスマホは使ったことがありませんし、娘が渡したタブレットには触りもしませんでした。そのバッコが、ひ孫誕生の迫った今年6月、娘同然の姪を同伴して、放置していたタブレットをauショップに持参し通信契約を結び、ルーターを購入してWi-Fi環境を整え、LINEの音声入力の方法を教えてくださいました。そして、LINEグループ「バッコクラブ」に「聞こえますか」という初のメッセージを送りました。「バッコクラブ」メンバーの子どもたちや孫たちは驚き、「バッコすごい」とスタンプ入りで絶賛しました。しかし、ここからが多難な日々でした。バッコはLINEが不通になると、ガラケーで孫たちに助けを求めました。バッコの不通と復旧が繰り返される毎日に皆が慣れてきた頃、バッコからのSOSはなくなりました。不思議に思って尋ねると、バッコは何人かの「助っ人」を見つけていました。一番の「助っ人」はヤクルトさん、他には仲良しの宅急便のおじさん、書道塾の元お弟子さんの文房具店のご主人などだそうです。この時、私はバッコのLINEが、日常的に「調子どう？」と声をかけてくださる人々によって繋がっていることを知りました。

母は、コロナ禍で直接会えない子どもたち・孫たち・ひ孫とLINEでコミュニケーションを続けられ、皆の日々の様子が分かって寂しさが和らいでいると言います。また、目が疲れるほど操作に熱中する経験をして、ゲームに熱中する子どもたちの気持ちも分かったそうです。私は、母が日々のくらしから生まれたメッセージを発信したり、庭に咲く花の写真などを撮影して送ってくることに、同じ時間を生きている幸せを実感し、「助っ人」の皆さんに深く感謝しています。

### 3. 研究会からのお知らせ

#### (1) 第15回「社会情報」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年12月16日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) 概 要：連続講座の振り返りおよび今後のテーマの検討

※ 参加ご希望の場合は、前日までに森 moriyasu@ied.co.jp までご連絡ください。

#### (2) 第11回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2020年12月19日(土) 18:30~20:00
- 2) 場 所：きゅりあん(品川区立総合区民会館)
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：市民が市民を支える社会をつくります

※ お問い合わせは、鈴木眞澄(mme\_masumi@yahoo.co.jp)迄お願い致します。

#### (3) 「災害と地域社会」研究会から「シンポジウム」のお知らせ(再掲)

##### 第7回シンポジウム「あれから10年~わたしたちはフクシマを忘れない：富岡町と浪江町の10年目」

- 1) 日 時：2021年1月10日(日) 14:00~17:00
- 2) 場 所：Zoomによる開催
- 3) 話題提供者：平山 勉(富岡町)、原田雄一(浪江町)、大坊雅一(浪江町)
- 4) 概 要：10年目を迎えるフクシマ原発被災地で、地元の復興を担ってきた住民の方々は、地域の復興、個人の復興をどのように経験し、また新型コロナウイルスの復興への影響をどのように感じて日常を送っているのでしょうか。今回は現地から地元の人びとに報告していただきます。

※ 詳しくは、添付チラシをご参照ください。参加ご希望の場合は、2020年12月1日~2021年1月8日の間に、当学会ホームページ、または添付のチラシにあるURLの申し込みフォームからお申し込みください。Zoom参加ですが、人数に制限はありません。

※ お問い合わせは、長田まで。pfb00052@nifty.com 090-2157-8865

#### (4) 第128回「社会保障」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年1月27日(水) 18:00~20:00
- 2) 報告者：畑 亮輔 (北星学園大学准教授)
- 3) テーマ：「福祉人材確保の現状と課題～北海道における実情と取り組みを例に～」
- 4) Zoomで開催いたしますので、ご参加を希望される方は、阿部と小島にご連絡下さい。  
[阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp](mailto:阿部富士子 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp) [小島みさお kojima.misao01@gmail.com](mailto:小島みさお kojima.misao01@gmail.com)

※ ご質問がありましたら、阿部(旧姓佐藤)まで 090-4436-6853

#### (5) 第75回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年1月28日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所：早稲田大学・国際会議場4階第7共同研究室
- 3) テーマ：発表 — 「青鞥の女性たち/平塚らいてうと伊藤野枝を中心に」
- 4) 発表者：堀江副武
- 5) 参加費：300円

※ お問い合わせは、島村 (ken-sima1941@jcom.home.ne.jp) までお願い致します。

#### (6) 第12回「YNS やまぶき任意後見サポート会」開催のお知らせ

- 1) 日 時：2021年1月30日(土) 18:30~20:00
- 2) 場 所：きゅりあん(品川区立総合区民会館)
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：市民が市民を支える社会をつくります

\*お問い合わせは、鈴木 眞澄 (mme\_masumi@yahoo.co.jp) 迄お願い致します。

〈現状〉

任意団体「アワーズ」とコラボで行います。本会では認知症の方が住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けるための研究を続けています。特に昨今はコロナ感染で社会全体が変わろうとしています。そこで、これからの地域は相互扶助の関係を見直すことが必要になっていると考えています。

## 4. 研究会からの概要報告

#### (1) 第127回「社会保障」研究会の報告

- 1) 日 時：2020年11月25日(水) 18:00~21:00
- 2) 報告者：谷口 佳充(三井住友信託銀行人生100年応援部長)
- 3) テーマ：「高齢者の財産管理のための家族信託」
- 4) Zoomで開催。参加者 12人

今回は、「信託」と「人生100年時代になることで新たに発生する財産管理の課題」についての説明のあと、「家族信託」についての説明があった。信託については、十字軍や弘法大師の時代の信託の例から、現代の信託についての説明があり、信託が分別管理機能や、各種転換機能(権利者の能力、時間、性状、単位など)を有していることを理解できた。次に、80歳以降に有病率が高まる認知症の説明と、これに対する事前準備の選択肢として、法定後見の他に、任意後見制度、家族信託、信託銀行の信託商品があり、守備する範囲や、コストが異なることの説明があり、家族信託のポジションが理解できた。

そして最後に、家族信託について、財産の管理と承継を目的とする例と、不動産の管理、建替えを目的とする例の説明などがある中、高齢者本人のためではなく家族のために設定されてしまう家族信託など、利益相反がありうるケースの紹介があり、家族信託が高齢者の財産管理として有用ではある一方、注意すべき点があることが理解できた。また議論の中で、社会福祉士からの後見に関する追加情報の提供もあり、社会保障制度としての後見、家族信託、信託銀行の信託商品の使い分けについて議論が進んだ。(谷口佳充 記)

## (2) 第11回「YNS やまぶき任意後見サポート会」の報告

- 1) 日 時：2020年11月28日(土) 18:30~20:00
- 2) 場 所：江東区南砂グリーンハイツ集会場
- 3) 発表者：鈴木 眞澄及び会員(YNS やまぶき任意後見サポート会)
- 4) テーマ：市民が市民を支える社会をつくります

※ 新型コロナウイルス感染症の人数が増大したことから当集会所の使用が中止になりました。

〈現状〉

『任意後見をして!』という冊子を作製しました。「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会を実現する」ために本会では、社会福祉士、弁護士、司法書士、行政書士の集まる任意団体「アワーズ」の協力を得ることができました。本会では認知症の方が住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けるための研究を続けています。特に昨今はコロナ感染で社会全体が変わろうとしています。そこで、これからの地域を考えるうえでかつての協働組合や沖縄の「ゆいまある」「地割制度」「伏見16会」頼母子講、無尽などを取り入れるなど相互扶助の関係をつくるが必要になっていると考えています。

## (3) 第14回「社会情報」研究会の報告

- 1) 日 時：2020年11月18日(水) 15:00~17:00
- 2) 場 所：Zoom 開催
- 3) テーマ：11月28日開催の連続講座の予行ならびに検討を行いました。

## 5. 事務局からのお願い

会員情報(氏名・住所・メールアドレス等)に変更が生じた場合は、速やかにご連絡くださいますようお願い致します。

なお、電話による会員情報変更や退会の連絡はご遠慮いただいております。シニア社会学会事務局あてに、メール・FAX・郵送いずれかの方法にてお知らせくださいますようお願い申し上げます。

冬季休業のお知らせ

事務局は、本年12月25日(金)~2021年1月8日(金)まで休業です。新年度の事務局は、1月13日(水)から開室します。また、次号のJAAS News257号は、新年1月20日(水)に発行し、会員の皆さまにお届けします。楽しみにお待ちしております。

2020年も残すところ半月となりました。今年は新型コロナウイルス感染拡大で、上期は総会・大会をはじめとして、各研究会やイベントが延期や中止となり、会員の皆様にはご迷惑をお掛けしましたが、お陰様で、シニア社会学会会員の皆様からコロナウイルスに感染したという報告がなく、皆さまそれぞれ自粛されるとともに、日ごろ十分な注意を払い過ごしていらっしゃることに感謝します。

来る2021年、感染が終息するまでには、時間がかかるでしょう。お互いに更なる自粛・健康管理をよろしくお願いいたします。

会員の皆さまには、年の瀬、ご自愛いただき良き年をお迎え下さい。

シニア社会学会 事務局一同

一般社団法人シニア社会学会・事務局(水、および月または金オープン)  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-27-4 ナカヤビル202  
電話&FAX:(03)5778-4728  
eメール:jaas@circus.ocn.ne.jp URL:http://www.jaas.jp/